

平成24年度 第4回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

【日時】平成25年1月31日（木）午後7時30分～午後9時00分

【場所】市役所5階 501会議室

【出席者】

〈河内長野市文化振興計画推進委員会委員〉

谷 悟・千原 喜美・魚返 普子・川上 勝・小西 朋子・白井 春夫・寶楽 陸寛・  
松村 千恵子・南 美鈴・山田 淳子・

〈事務局（河内長野市教育委員会事務局ふるさと文化課）〉

井上・東畑

〈オブザーバー（公益財団法人河内長野市文化振興財団）〉

大久保

【配布資料】

- ・平成24年度 第4回 河内長野市文化振興計画推進委員会次第
- ・資料1 具体化のため 必要な基盤整備について 修正案 ver.2（幹事会案）
- ・資料2 具体化のため 必要な基盤整備について 修正案 ver.2 補足資料（幹事会案）
- ・資料3 団地R不動産について
- ・資料4 平成24年度第3回河内長野市文化振興計画推進委員会議事録
- ・ラブリーニュース他

以上

#### 谷委員長

みなさん、こんばんは。寒い中お集まりいただき、ありがとうございます。次第にもありますように、文化振興を推進させる具体案ということで、地域資源の発掘とデータベースの作成というテーマを掲げ、今回で3回目になります。文化振興計画の推進といっても、何をどう手をつけていけばいいのかということで始まったわけですが、河内長野には、豊かな自然と歴史遺産があると同時に、前回の委員会でも話題に出ましたが、様々な表現限活動をしている人々が自主的にコミュニティを形成する動きがあります。最新の情報では、天野酒蔵周辺で、河内長野スイーツのイベントを仕掛けたグループが、奥河内に関するおしゃれなフリーペーパーを出す予定があるそうです。この委員会が言わなくても既に動きが出てきている。それは、河内長野の魅力を伝えていくというようなものになると思うが、私たちは、上位概念である河内長野の文化振興をもっとおもしろくしていくためにはどうしたらいいのかという時に、やはり、まず最初に、人に光をあてないといけないのではないか。では、どういう人達に注目したらよいかということで、ここに幹事会の皆さんの意見を集約したものを資料1の3ページに「②人でつながる人材（文化数珠つなぎ調査）」と題して、まとめてみました。まず、河内長野市に「縁」があるということを中心に、河内長野で生まれた人や、住んでいる人は言うまでもなく、河内長野に生まれ、かつて住んでいた、通っていた、滞在していた人物を含めることにした。滞在というのは数日間の滞在でもよいと思う。このような人達を基本とし、市民の中でもおもしろい表現をしている人、日常生活のレベルで、地域で独創的な活動をしている人、河内長野を訪れ、この地を愛したアーティスト、歴史遺産の魅力に引き寄せられた芸術家や文筆家、白洲正子、司馬遼太郎もその対象としたい。また、まちの記憶としての歴史上の人物、これは先程言いましたように芸術だけでなく広い意味での文化振興として、我が国において、先進的な文化を拓いてきたくろまるも含めて、まちの記憶として、あの世に旅立った物故の方々もデータベースには入れることができるのではないかと考える。このようなあり方は非常にユニークであり、河内長野モデルになるような気がする。ここまではこの作業をしていく上での範囲指定であり、皆様のご協力でまとめることが出来たことを感謝したい。具体的には実行委員会を立ち上げ、どのように情報を集めていくのかという部分に関しては、そこで細かく議論をしていかないといけないと思うが、本委員会としては、すぐ行動に出られるようにもう少し細かく答申には書いていかないと、どうしても理念だけでは空回りしてしまうのではないかと考えている。調査する時のフォーマットをはじめ、様々な資料も合わせて提出したいと考えている。これを作ることが文化振興計画を推進していく初めの一歩になると思うが、範囲指定についてご意見を伺いたい。

#### 魚返委員

先程、冒頭で触れられた高野街道について、伊勢参りであればお伊勢さんというところがあるし、ここであれば高野山に基づいての道中であったということ、もう少し鮮明にす

るために、宗教と絡んで、神社・仏閣があるということを前回に発言した。高野街道に行くポイントではなく、街道であった、旅館もあった、そういうことをすべて語れるような人や、もう少し筋道立てて、「高野街道とは何か」というような、一番根本の高野山とのつながりが必要と思う。

#### 谷委員長

社寺・仏閣というのは議事録14ページにも少し出ているが、ちょうど松村委員が今お話しされた高野街道が三行目に「聖地である高野山と俗世間を繋ぐ道という当たり前の認識が弱いまま、イベントを催しているところが気になる」とある。何のためのイベントなのかという問題が大切であるように思う。今回のデータベースの対象範囲は、芸術だけでなく、学術分野、例えば、郷土史も入れてもよいと思う。今までバラバラだったものが、ここに、集約されていくと、その層も厚くなり、アーティストたちがその人達の話聞いて刺激されることもある。宝楽委員がまとめてくれたダイアグラムにもあるように、学術のコミュニティ、郷土史のコミュニティ、芸術文化のコミュニティ、芸術文化でも文化連盟のように既存の形でずっときちっとやっつけられているところもあれば、山田委員が教えてくれたひそやかにとかやっているとか、南委員や渡辺委員のように、個人レベルで企画運営されている方などがいるが、みんなバラバラでやっている。例えば、芸術文化について言えば、学術的なもの、郷土史とはあまり、交わることがなかったように思う。また、その分野では、本を出版することを終着点とするところがあると思う。しかし、そこでとどまらず、例えば小西委員がその知と向き合い、人形を作りたくなればおもしろいと思う。複数の点が線になり、また面になるあり方を考えることが大切であるように思う。教育委員会、或いは、市長に対して本委員会の総意として提言書を作る際には、多様なものが連携していく可能性を視野に入れることも重要だと思われる。実際に、郷土研究に力を入れておられる人、グループは河内長野市にありますか？

#### 井上課長

河内長野には、郷土研究会というのがあり、歴史も古く、今年で50周年を迎え、昨年には、府知事賞もいただいています。かなり熱心に研究されています。

#### 谷委員長

歴史と芸術文化は、別のジャンルと思われることが普通なのだが、リンクの仕方により、双方が刺激を得られるようなものになるのかもしれない。

#### 魚返委員

天野山も弘法大師の信仰らしくて、槇尾山に通じる道だった。きっと天野山にもそういう詳しい方がいると思う。

**谷委員長**

今後の目安として、提言書の作成時期を定めたいと思う。今年度は3月にもう一回委員会があるので、そこでこれまでの成果をしっかりとまとめたいと考える。再来年度に向けて、7月の財政担当者とのヒアリングにおいて、その必然性を説くことができるものを作りたい。いよいよ、仕上げの段階に入っていますが、何か発言されたい方はいらっしゃいますか？

**小西委員**

私の父も郷土研究会に入っていて、知り合いの方がかなり活躍されていて、すごく熱心でいい会と思う。資料もたくさん集めて勉強もされているが、そこから続きの活動が見えにくいのは、少しもったいないと思う。

**魚返委員**

少しあまり密教に焦点をあててしてしまうとどうかと思うが、高野山の本家のどなたかに少し触れていただき、そしてその昔の人の心に戻りたい。

**谷委員長**

高野山は、両界曼荼羅というすばらしいものを持っているし、観心寺にもそれはある。曼荼羅は宇宙をあらわすものであるが、例えば、各小学校単位で、現在をリアルに反映させた曼荼羅を作るなど、学校教育の現場での取り組みも考えられる。今回の高野街道まつりで人が集まって、河内長野市民の潜在力があるということはわかったが、肝心の核がないし、テーマ性がないのが残念だ。地域住民も含め皆で曼荼羅を部分ごとに描き、それを集め、並べることで完成させるシステムで、大きな作品を創ることもできるだろう。この委員会の考え方を波及させることで、これまでのやり方を疑うことに繋げたいと思う。特産物を販売し、駅前で、高野街道となんら関係ない演奏やパフォーマンスを披露し、人が集まっている、できていると思っている感覚に楔を打ち込みたい。市も支援する事業だけに、意義が感じられるものにする必要があるものと思われる。河内長野で催される文化活動を観測し、評価することもこの委員会の大きな役割であるため、しっかりと分析しなければならぬと思う。本当によいものを創るためには、きちんとしたコンセプトを構築する必要があるが、プランニングの段階で、郷土研究会の方々に資料を提供していただいたり、レクチャーしていただくなどコラボレーションする道は大いにあるような気がする。

**魚返委員**

若い子達に伝えたいと思う。

**松村委員**

郷土研究をされている棕本さんという60代の方ですが、とても勉強しておられる。この町から生まれたわらべ歌があるが、棕本さんから歌詞やいわれなどを教わり勉強になった。文化連盟の花フェスタの際、ラブリーホールの大ホールで、私の子どもの弟子や父兄も混ざり、わらべ歌を披露した。この町を知るいい機会になった。

**魚返委員**

本も出されていると思う。

**谷委員長**

私達、大学教員の世界も、本を出版したり、学会で発表すると落ち着いてしまうところがある。市民にその成果を波及させる工夫や、また、それだけでなく、おもしろい応用の手法を工夫する必要がある。文化的な学の世界の人達と連携して、そのデータベースを作成することも大切であろう。

**魚返委員**

南花台在住で高野山大学に夫婦で通っている人で、すごく熱心に勉強・研究していて、岩湧山で法螺貝を吹かれる人がいる。もちろん棕本さんもすごい仕事人だが、そういう方もいて、こういう方もいて、それから観心寺、天野山が教えてくれたら、また迫力が違うと思う。

**谷委員長**

連携していくことは必要と思う。それは先程言ったように他の市ではなかなか出来ないことと思う。

**松村委員**

そう思う。河内長野市ならではのことがたくさんある。このまちにはいにしえに文化的なことをされた方が、特に文楽の語りの方が実在したということもあり、文楽とゆかりがあると聞いている。また、文化連盟として観心寺で薪能もしていた。様々なパイプというか、つながりがあったと思う。

**魚返委員**

一般の人にその成果を明確にしていくと、棕本さんの研究も日の目を見erと思う。肩書きや名前ではなく、何をしてくれるか、その方が大事だと思う。いろいろな組織があるが、どなたも何をするかどうするかそのことしか考えてらっしゃらなくて、それが一番この会の誇れる宝と思う。

#### 谷委員長

もう少し意見ありませんか。

#### 川上委員

私も最近、椋本先生と話をしたり、いただいた本を読み、私自身、自分の住んでいるまちの歴史もいろいろ書いてあるから必死に調べている。先生は、実際に足を運んで全部、古文書も全部あけて、すごく調べられているが、専門的にされているため難しく思える。ただ、「歴史はどうあるかという研究は、専門家にまかせておいた方がいい」「君らは自分の生活の中でそれをたどったらどうかという点だけを考えた方がいい」とおっしゃったことが非常に興味深く思った。例えば、私たちが郷土の歴史をデータベースとしておこすとしたら、専門的には椋本先生の書籍で残っていつているため、もっと生活に密着した、郷土歴史みたいなものをわかりやすくまとめれば、子ども達ももう少し入ってきやすいなと感じた。また、先生もそういうことを望んでいる。だから、研究している一方で、花フェスタや、他の事業に自分の考えを形にしている。それをどこでスポットをあてるかどうかは、もちろん世の中の流れとかいろいろあると思う。

ひとつ気になったのが、この基準を設定する上で大切にすることでこの2ページ目①の「まち体温が感じられる」中の点の五つ目に「在住者だけでなく、えにしでつなぐ」とあるが、ここに「国籍にかかわらず」という文言を追加してほしい。以前、河内長野の人口を調べていたら、外国籍の方が約500人いる。圧倒的に韓国と中国籍の人が多いが、例えばその人々の中にも貴重な、いわゆるまちに対する思いや、例えばこういう伝統の技を河内長野の技をもしかしたら習得されている方がいるかもしれない。そういう海外から来られている人々にもヒアリングした方がいいと思う。

#### 谷委員長

ありがとうございます。河内長野で縁を結んで何かをひとつ習得するというお話があったが、河内長野を愛して絵を描いたり、写真を撮ったりしていて、私達が知らないあいだに、それを本国に持ち帰って、展示をしていたり、母国で先生になったり、河内長野のことをお話しするなど、国際的な面に繋がる活動もされているのかもしれない。芸術、文化、歴史、国際的分野は、離れているが、ぐっと距離が縮まってくると思う。

#### 川上委員

何かきっかけがあるのでしょうかね。

#### 魚返委員

河内長野にも、今の七つ辻の辺りに韓国籍の人が住んでいた場所があった。同級生もいた。

**山田委員**

学校の先生で研究者と重なる人もいるが、どの分野の先生が何をしているか全然細かいこと知らない。そういう情報を網羅しようとする際、自分から申し出てくれればいいが、人が何を研究しているか大体、分野がわからない。

**魚返委員**

霊宝館の前の副館長さんも河内長野の方と聞いている。  
河内長野にもそういう方がいると思う。

**山田委員**

縁の繋がりが大切と思う。きっとこの繋がりで本当に知らない人でひそかやに活動している人はやはりいると思う。

**魚返委員**

繋がりは大切ですね。実績があるのにみんなに浸透してないというのは、もったいない。

**山田委員**

大阪府の文化年鑑のようなものに河内長野で載っていたのは郷土研究会とラブリールホールと親子劇場だけだった、今は廃艦になったが郷土研究会は最後まで会に入っていた。やっぱり誇りがあるのだと思う。

**川上委員**

山田委員が言われたように例えば、ある目的をもって、作成したデータベースで抽出された人について、その人を知っている、この人こういう人だということを、一言聞いたら一気に信頼度が高まると思う。つまり、人的ネットワークも同時にデータベースとしてあるが、このような形で情報が流れるところを作っておかないといけないと思う。データベースで残ったら、それ自体が動くことのきっかけは基本的にないが、ここで、あそこですごい作品作っていると一言あれば、それをきっかけとして物事が進む。そのような人的な交流するネットワークとかいうものを何らかの形で並行して作る必要があると思う。

**谷委員長**

それは、今ミュージック・パーク・ネットというものがありますが、施設レベルであり、ラブリールホールで見本市のような事業も開催している。今後、小ホールや、ギャラリーなどで、データベースの人版のようなものを催すのもよいと思う。トークショーも実施して、自分の活動のポイントを伝えてもらう機会をつくることは大切であるように思う。毎年、テー

マを決めて、それで何か一緒に繋がるようなことをやれる仕掛けを創るプロデューサーや様々な質問に応じるコンシェルジュのような人も育ててくれたらまちはおもしろくなるだろう。

#### 川上委員

大阪21世紀協会が主催の大阪国際会議場での舞台演劇見本市では、文化活動の展示会のようなことしていた。演劇や、アート、音楽家などの展示即売会のように、その団体の人物が必ず参加する。例えば、演劇のリーダーは3分ぐらいの寸劇をそこで実演するし、それを見た人が興味があればチラシを持っていく、もしくは、そこで話をする。

#### 川上委員

3・4回実施したが、とてもおもしろかったので、続けて欲しかった。私の友達、後輩がプロデュースしていたが、予算がなくなった。今、ラブリーホールで行っている形のものをもう少し形作って、毎年は無理でも例えば、2・3年に1回ぐらいの形で行うと、わかりやすいと思う。

#### 谷委員長

それは非常におもしろいと思う。

今、機関ではなくて施設で取り組んでいるが、人でしてみるとおもしろいと思う。

#### 川上委員

だからそれは逆だった。募集をかけて集まった人達の個人やグループのデータを本に残した。声をかけるのが先で、集まってきたデータを逃がさないとばかりにその団体のプロフィールなどを冊子にして、当日配っていたと思う。

#### 谷委員長

様々な立場の人たちが訪れて、プレゼンを見て、聞いて、お見合いのようなマッチングをする。そこで、別に用意したミーティングルームで、一緒にやらないかというような話ができる場を提供する。これは、今日の新しい発見で、それぞれの思いがあるのにうまくつながらない現状を打開するよい機会にもなるのではないかな。

#### 川上委員

若手を集めたいという思いと移動講演でどこか使ってほしいという劇団の連中の必死の思いがあるから、すごく商談みたいなコミュニケーションで、結構その場が盛り上がる。そういうシーンが割とぼつんぼつんとおきて、大変おもしろいなあと思う。

**魚返委員**

大師町というのは、あの弘法大師の大師から名づけられたらしい。ところが今、新興住宅地だから、そのいきさつを知っている方はあまりいない。きっとこの高野山との因縁は深いところだと思う。

**谷委員長**

地名もおもしろい。

**魚返委員**

長野、古野など「野」がつくところが多い。こういうことを調べてもおもしろいと思う。

**谷委員長**

貴望ヶ丘の「貴」について、偉いところに住んでいるとよく言われる。私も引越しして来て、今日までわからないままになっている。

**白井委員**

最初に分譲の時からあの名前だった。

**魚返委員**

私は、サニータウンとグリーンヒルズを反対に思ってしまう。グリーンヒルズが緑ヶ丘ではなく旭ヶ丘で、サニーが緑ヶ丘と呼ばれている。ちょうど逆と思う。

**谷委員長**

地名というのは、その地の記憶を内包している。どこの地名も興味深い。南花台は、南の花の台と書くが、何かそこに想いが込められているのだろう。

**魚返委員**

「南河内」というのは、南河内郡長野町だったからと思う。市になる以前、大阪府南河内郡長野町〇〇と言っていた。だからそこからとられたのかもしれない。

**谷委員長**

今の範囲指定の部分については、はいろいろな発言をしていただいたので、提言書をまとめる際に反映させていただく。データベースが出来た後、それをうまく使って、人そのものが交流して各施設のマッチングを図るというアイデアが、今日でてくると思わなかった。みなさんが様々な角度から発言してくれるとアイデアを引き出せることができる。これも資料に追加したいと思う。

### 宝楽委員

さっきおっしゃった話は、点から線と、線から面へとすごく繋がってくると思う。例えば世界的な音楽祭でもバイヤーさんとアーティストを繋ぐことがあるが、そのことで、そのまちの活力を作る、人の流れを作るっていうのはすごく大事であると感じている。今日この補足資料でも、ここは先生がお話いただいてまさにそうで、河内長野で点在している情報をデータベースで後世に繋いでいくということは、出来てきたそのデータベースを、その後の利活用まで視点に入れて提言するっていうのは確かにすごい説得力があると思う。ただデータベースを作るのではないというところが重要と思う。あと私僕自身は、調査する人はやはり市民からも育成する、目利きできる人を育てていくというのはこの委員会ですてきた話だと思うので、資料1の4ページにあるその可能性の集える場や人材の育成、情報発信、環境の整備というところも議論、確認した方がいいと思う。特に、その市民が集う機会を作ったり、既存にあるスペースに人を集めることで、また新しい情報を集めるなど、そういうことも調査の一端に入れておくと、通り一遍の調査で終わらなくていいと思う。

### 谷委員長

宝楽委員の話にもあったように、河内長野には目利きの人が多く、そういう人を育てていくことが重要で、このデータベースを作る際に専門家に一括して丸投げするのではなく、自発的に手を上げて実行委員会として活動してもらうことが必要になる。どのようにして募集するかが問題になるが、世界民族音楽祭の実行委員会の場合、委員5人は必要であり、ラブリーニュースなどで呼びかけて募集したが、応募者は3人であった。私の知人たちも河内長野の世界民族音楽祭と言うと、一目おいてくれ、かなり定評のある取組みであると思うが、結果的に集客が厳しい。一方、この委員会の実行委員会は、もっと地味で、現実的には、厳しいと思う。そこで私の大学の学生たちが取り組みたいと思えば、やることもよいと思うが、学生は全国から来ているので、河内長野に愛を注ぐと言う点では弱くなるざるを得ないと言えよう。先生が行くのであれば、勉強としてついて行くという状況だと、うまくいかないであろう。どうやって集めたらいいのかということのアイデアを答申の中に入れないと、やったらいいで終わってしまう。資料編にフォーマットのサンプルまで作り、入れたいと思っている。実際には、実行委員会を立ち上げ、委員を応募する際、告知を紙媒体でするだけでは厳しいため、“一緒にやろうよ”と呼びかけ、詳細を説明するガイダンスを実施することがよいだろう。例えば、高校や大学では、おそらく出来ると思う。それ以外にも本当に愛を持ってやってくれる人達がどこにいるか、ガイダンスに赴く場の検討こそ、ポイントになろう。私は実行委員長ではないが、指針をまとめた責任者として、しっかりと見守りたいと思う。

また、何人か集まった時、どこを拠点として資料を取りまとめたり、インタビューしてき

たものを原稿に起こしたり、写真の整理をしたりする場所の確保も考える必要がある。ラブリーホールにはそのような場所はない。調査費は少額と思うので、プログラムを構築する予算までいかないにしても、ちょっとしたことから最初は始めていきたい。こういう活動に理解がある方が、使っていない部屋があるから提供してくれると言う自然発生的な動きがアートセンター的な活動拠点を生み出せるか、否かが、本事業の生命線になろう。空き住宅の提供やまちの文化基金をだしてくれるスポンサーを集めるアーツマネジメント戦略を考案する必要もあろう。

#### 松村委員

私の稽古場はが夜ほとんど空いている。

先日も花フェスタのほとんどの稽古をこの稽古場でしていた。自由にここを使って下さい。人数は40名ぐらい充分入れると思う。

#### 谷委員長

例えば、そういうものはいっぱいあった方がおもしろい。例えば、南花台の小学校が、今度、統合されて、一つ空くことになる。これは、地域の想いとして、どのように使うかは聞いてないが、例えば、公益のためであれば、市がマイクロバス出すとか、第3土曜日は集中審議や集中作業ということも交渉次第と思う。ただ、やはり、アクションの委員会だと言ったところで、環境整備も整っていない、そのようなことも全部、緻密に細かく検討した上で、委員会の総意として、市が基本方針も全部固めた上で、こういう可能性があるということを示唆して、それで実行すれば、かなり現実度、実現達成度を高めたやり方ができる。それができれば、私たち委員も責任をもって、ガイダンスに回れると思うし、文化振興を推進していく上でスタートをきれと思う。

#### 魚返委員

学生は来やすいと思う。

#### 谷委員長

そういう際に椋本さんに少し話をしてもらうのも面白いと思う。自然発生的な流れを重視したいが、ただ、ある最低ラインは段取りしなければ、收拾がつかなくなるだろう。

#### 松村委員

やはり、コミュニケーション、ミーティングの大切さというものがある。

#### 魚返委員

最初、ある夫婦でラジオ体操していたのが、どんどん広がり、話し合いやみんなの高齢化

になって無事を確認めあうような場所になっているという事例があった。

#### 谷委員長

前回の議事録の3ページの一番上に「わがまちでひそかに話題になっている文化スポットを集め、地図を制作したい」と書いているが、いわゆる市民文化の拠点、沙龙的な機能を展開していくラブリーホールとは別次元で、インディペンデントな活動で、独自のものを育てる場合も興味を持ってくれるのではないかと思う。またそのような場所同志がうまくコラボレーションするような仕掛け作りができないかと思っている。例えば市のマイクロバスで、ツアーをするのもおもしろいと思う。そして少しずつ時間をずらして、勉強会をしていくと、更におもしろいと思う。

#### 魚返委員

滝畑でしたいですね。

#### 谷委員長

いろいろな形でそういうところにツアーをするという、ある種、河内長野文化交流教室みたいなものも面白いと思う。エクセルの表だけでなく、立体的な設計のあり方が重要と思う。検索のかけ方、これは難しいが、いろいろな形で、五種類ぐらいの組み合わせをつくるということは可能で、検索で、様々なパターンが抽出されるようにしていくとおもしろいと思う。

#### 宝楽委員

東京で若い子らがおもしろいと目立っていたので持って来た。これは東京 R 不動産という不動産屋のもので、少し変わっている。この中で、資料の東京 R 団地という団地版が最近読まれている。例えば、大阪市内にも団地はいっぱいあるが、日本の団地だけを集めたサイトである。団地というと、ちょっと固定概念があると思うが、それをあえて、綺麗にして、簡単におしゃれにして若者に団地に住んでもらうようにPRしているサイトで、団地のサイトをクリックすると資料3の2枚目にあるように、富田林の藤沢台第5団地の「住む人の個性が見え隠れする色とりどりの表情を持ったテラスハウス」とあり、団地をそのように書いてある。画一的という言葉は団地のかっこよさを表すキーワードの一つでもあるが、この団地を見てもらってここに書いてあるのは、いい意味で、画一的なものが希薄であり、このプロのライターが書いた文章により、団地を見つめ直すとかこの団地住んでみたいと思う。そういう意味では、ひとつは不動産のサイトというのは検索で一番参考になると思う。間取りは南向きでとか、お風呂はセパレートでとか、若者が検索する。こういう写真からも訴えられるし、たぶん完成するサイトはこんなイメージになるかなと思っている。こんな団地だったらほっこりとか都会とか、シェアとかOK、ヨーロッパっぽ

いとか、そのような検索が考えられる。

**宝楽委員**

最近、大和川とか淀川沿いの家が、実は若い子の間ではやっている。

**谷委員長**

水辺。ウォーターフロントですね。

**宝楽委員**

今まで川沿いの家というのは、あんまり大きな窓をつけなかったが、最近は反対になっている。ネットの出し方はこのようになるのかなあと思う。検索も市役所が作ると言葉が画一的になってしまうと思う。例えば、この「ほっこり」というと、イメージが漠然としたまま伝わらないため、行政が作ると出てこない言葉と思う。

**魚返委員**

以前、子どもに作品を書かせた際、河内長野について「河内長野はほかほか大きなおにぎりだー」と書いた。子どもの言葉って、おもしろいかもかもしれませんね。

**宝楽委員**

この市民を巻き込む際のひとつの視点として、例えば子育て中のお母さんとか、子育てがひと段落しているお母さんぐらいの世代を対象とすることは、一つの取り組みとしてとしては検討する必要があると思う。

**谷委員長**

以前、視察した「あいく」は、他市からの利用者もあり、月約5千人の利用がある。河内長野が誇る施設を有効活用することは重要であると思う。

**宝楽委員**

そういう人達、そういう場所に行けるお母さんの中には、もともとデザイナーをしていて、今は仕事できないから昼間、育児に集中しているが、いつかは仕事に戻りたいと思ってる方もいると思う。

**谷委員長**

行政や委員会の活動も含めて、ポートフォリオとして、冊子にしたり、ホームページを作り、情報発信することは、その人達のキャリアにもなる。

#### 宝楽委員

私の仕事からみで調査をしている中で、子育て中のお母さんの再就職率の全国ランキングが出ていて、1位は、北陸方面で三世同居ができているところ。70%の就職率で、一方、全国で一番再就職率が低いのは大阪。それはやはり、その仕事がないということと、働きに行かなくていい可能性がある。都市圏なので東京、兵庫、大阪はすごく低い。そういう意味でもその就職には繋がらないとしても活力として女性という視点を入れておくことが今大事である。文化と言ってしまうと、くろまる大学みたいな感じの層が集まってしまうと思う。そうすると情報が固まってしまうのもあると思う。切り口として若い視点が必要だが、ただ大学生などは、また若さがきらきらした感じで、いい意味の落ち着き、生活者視点が必要とも思う。

このまちに住んでこのまちで生活している若い人、大学生はこのまちに住まないかもしれないが、ここで子育てしているお母さんはこの町で生活してこのまちを好きになりたいと思っている方多いかもしれない。そこが一番大事と思う。

#### 谷委員長

すごく重要なことと思う。

#### 山田委員

私も以前、自然観察会の方から同じこと聞いた。本来は小学生向けのイベントをずっとしているが、小学生は忙しくて来ない。代わりに幼い子を連れてきたお母さんが来るようになった。やはり今の若いお母さんは、結構アウトドアで子どもを連れて出る、自分も楽しいし子どもも楽しい。特に河内長野でよく問題になるのは、アウトドアと室内とする文化の取り合いである。河内長野はアウトドア的にはすごく恵まれている。その中でいろんな文化もすごく求めていると思う。そういうところで、歴史の自然観察の話を知ったら、すごく母親も嬉しい。子どもはこうして遊べるし、そういう意味では今、宝楽委員が言われたように若いお母さんは決して侮れない。やはり出たがっている、勉強したがっていると思う。

#### 谷委員長

このまちに住むという覚悟で来ている人は強いと思う。そういう人を対象に少しかっこよく撮る写真の撮り方を教えることとなった際、好奇心旺盛な若いお母さんたちを連れてきて欲しいと思う。

このような事業の場合は、記録を撮影するためのトレーニングとなるが、実はうちの息子、娘もかっこよく撮れるようになることをPRしてもよいと思う。

#### 魚返委員

以前もらった「まちかどアート」を生徒さん達にも見せたところ、知らない作品もあり、

好評だった。寺ヶ池に行き「この角度や」「なかなかこうは撮れないわー」となり、あの一枚のお陰で、作品が広まった。みんな、こんないいものがあったと気づいた。私も知らないところがいっぱいあった。

#### 松村委員

自慢して他の市の方にあげました。

#### 谷委員長

東京 R 不動産の事例とあわせて、これは実現できるかどうかわからないが、遊ばせている資産を持っている人達が、アーティストのためのレジデンスとして、市も南花台を解放するとか、あるいは、例えば、にぎわいプラザも、アーティストの力を借りて全部インスタレーションぼくしてしまうとか。それがいっぱいいるんならできれば、固定資産税に少しの金額をプラスした賃料でよいからどうぞ使って下さいとなる。一方、アーティストは、その代わりに、ワークショップを3ヶ月に1度、催し、市民とともに創作し、場も開放するあり方が望ましい。私は、かつて、地図を作ると書いたが、そういうことをすれば、かなり、活かせるのではないか。このようにすることで、全然使っていない場所が生きてくると思う。ただ、ラブリールホールが文化の殿堂だという考え方もあるが、もっと河内長野には多様なサテライトとか、生きたトポスがいっぱいあって、アートがいっぱいあるという状況がおもしろいと思う。1か所でアートセンターを作るという考え方で、市が大きなものを箱物行政でやるというわけではなく、まさに今の時代としてはこのような進め方になると思う。

#### 川上委員

公民館であったり、昔でいうと、お寺であったり、そこに要所が集まって村の人の悩みとか、お祝い事などが、すべてがそこに集まって解決していくという場所があった。秋葉村という四万十川のまだ源流に近いところの村に打合せに行った時に、やはり集会所があった。すごいと思ったのは、そこにその村に伝わっている文化的価値のある物が全部ある。つまり、そこで子どもたちもその伝統的な芸能を全部習う。そこに行けば、現在もわかるし、過去もわかる。そういう場所がそこに根付いて、息づいているということのすごさを感じた。本来、いろんな町や村で、例えばお寺や集会所に困ったらみんな人が集まり、そこでいろんな文化も恐らく生まれてきていたと思う。だからそういう形で、あちこちに点的にそういう拠点ができることがおもしろいと思う。また、集める情報も発信してくれる、そういうサークルのようなものもいると思う。発信と活用を同時にしていかないと、「すごい資料です」で終わると思う。

#### 宝楽委員

今、ある意味、資源としての活用をしようという動きは、例えば、奥河内や子育ての町、おしゃれな発行物、町歩き、観光ボランティアなど、いろいろな発信する口はあると思う。それをみんなが参照できる場所を作っていくというのが私達の動きと思う。データベースでおもしろいと思ったのが、観心寺の国宝のひとつに資材帳がある。誰々にいくら寄附したとか、収めたとか、その当時の物資の動きを全部記録してある。このように、データとして記録してみんなが参照できるもの残していくことは必要と思う。発信の活用の仕方、見せ方のパターンは私達が見本を見せた方がいいかもしれないが、あとの利活用は市民の側で自由に使えるものとして、オープンソースにする。活用の仕方、見本は見せてもいいが、活用の仕方はみんなで作ってという余裕も大事と思う。

#### 魚返委員

なぜか河内長野の本拠地の長野町だけ公民館がない。土地など難しい問題があると思うが、公民館でなくても空き地にそういうセンターのような、今、川上委員がおっしゃったような文化のまほろばみたいな所があったらいいのになあと思う。歩く人にとって便のいい所で、まほろばみたいな所があれば。古野町の労働会館跡（セツルメント）は、昔、教育委員会があり、使用したことがあるが、足の便もいいと思う。一方で、駐車場が問題で、屋根も朽ちてきている。もったいないと思う。

#### 川上委員

セツルメント。懐かしい。昔は教育委員会があそこにあった。全然使ってないのですか。

#### 井上課長

この庁舎が建つ前に使用していました。

#### 川上委員

公民館という名称と、老人会館という形で建っているところもあると思う。私は石坂地区だが老人会館を公民館の機能として使っている。

#### 井上課長

公民館は社会教育法に基づいて建てているため、法律の縛りがあります。元々は各中学校校区に1つという方針でしたが、社会の流れの中で、もっと自由に使えるように、コミュニティセンターという名称の社会教育法に基づかない施設を建てています。

#### 魚返委員

なぜ、長野町だけ公民館がないのでしょうか？

**井上課長**

私もはっきり知りません。一方で、市の公共施設については、あまりにも多くて、どう維持していくかが、どこの自治体でも最大の課題です。本市では、庁舎、ラブリーホール、キックス、そして、学校等の教育施設、こういった施設をどう補修していくのか、本当に補修できるのか、あるいは、潰すのかとか、いかに高齢化社会の中で費用を捻出するか、いろんな選択肢が今後せまってくる状況にあります。行政の最大の悩みのひとつということですが。

**谷委員長**

少し言い足りなかったという部分があれば、最終的に答申を書く上では、年度内にもう一回、委員会があるので、ぜひ皆さんのご意見をお願いします。

**山田委員**

この対象ジャンルについては、単にハイアートといっても、誰もが認めるハイアートはあるが、迷う場合もある。もう少し具体的に書く必要があると思う。

例えば、写真が流行っている。河内長野は景色がいいから、すぐ撮ってその日の変化をNHKに送って、たびたび載せられている人がいる。今日初めて芽が出たとか、夕日がきれいだったという時に、NHKで河内長野の誰々さんが送ってくれましたって載っている。このような場合はハイアートになるか。

**谷委員長**

ハイアートとは、やはり、キャリアがあって、美術館やギャラリーで、展覧会を継続的に催している場合をいう。

先程の発言の場合、写真を趣味でやられているように思う。基本的にハイアートは、然るべく場で、プロとして、展覧会等を開催し、プロの批評家も動向をうかがうレベルを原則とする。ただ、今回のデータベースの対象範囲は、市民文化の領域で、独創的で、注目に値するものも含むかたちとしている。厳密な意味でのハイアートで活躍している人はそんなにたくさんいない。

**山田委員**

自薦のレベルと他薦のレベルが合わないこともある。

**谷委員長**

ハイアートというのは、プロであり、わがまちには、レベルが高い人も住んでいるし、訪ねてきてくれる。市民は市民で、ユニークな活動を何度も催し、かなりの熟練もおられる。それぞれのフィールドが存在するというように考えてもらえばよいと思う。

#### 川上委員

この前も話が出たと思うが、集まった情報を、データベースに載せるかどうか、これがハードルを越えられないものかどうか、判断をどこかでしなければいけない時がくる。それを委員会メンバーであるのか、もっと絞り込んで、そのハードル委員会を設けるのか、それも考えておかないといけない。今の議論は、ひとつの選び出していく情報を整理する手段であり、載せるかどうかの決定ではない。そのような見方で選別していない。そこをやはり先程のお話、そのハイアートと、趣味の世界の違いとかみみたいなことも含めて、判断しないとイケない。それが難しいですね。

#### 魚返委員

基準が難しい。

#### 山田委員

その方法も考える必要があると思う。

#### 谷委員

議事録をはじめ、資料に関しては、しっかり目を通していただきたいと思う。私達幹事会も遅くまで議論し、たたき台としての案を作成している。また、宝楽委員は、私達が幹事会で話し合ったことを資料にまとめてくれている。それから、この中には、より一層発展させられる手掛かりがあると思うので、3月までに、ぜひ、考えを練り上げていただければありがたいです。ご協力の程、よろしくお願い致します。